

スゴイ! 古墳時代へつづく かごしま特有の土器

弥生時代後期の土器は薩摩半島側と大隅半島側で、それぞれ地域色のある土器が使われていました。薩摩半島では熊本平野を中心につくられた黒髪式土器の影響下にある松木園式土器が分布し、大隅半島には山ノ口式土器の系譜を引く高付式土器がありました。

弥生時代終末期になると、両方の地域で中津野式土器と呼ばれる同じ型式の土器がつくられるようになります。古墳時代に近づくとつれ、南九州が一つにまとまっていく状況をうかがうことができそうです。

やがて古墳時代に入り、「成川式土器」と呼ばれるかごしま特有の土器が誕生します。